

41	カウミドリ<積香>	カウミドリ、パチョリ ①英名 patchouly ②英名 agastache	地上部	種子・葉・花・ クス薬粉は 「非医」	①Pogostemon cablin Benth ②Agastache rugosa (Fisch. et Mey.) O. Kuntze	Labiatae シソ科	②カウミドリ	①局外生規 ②??	①sesquiterpene alkaloids: patchoulipyridine, guaipyrindine (=epiguaiapyridine)	①oil: LD50 > 5g/kg (rat, oral)	①② Class 1	局外生規に収載され、また、漢方処方に配合されるなど、わが国で医薬品としての使用実態がある。また、アルカロイドも含まれるため専ら医薬品としておくべきである。カウミドリは局外生規におけるカウコウではないので、別項とすべきである。
42	カウコウ<葛根>	クス	根	種子・葉・花・ クス薬粉は 「非医」	<i>Pueraria lobata</i> (Willd.) Ohwi	Leguminosae マメ科	クス	局方			Class 1	局方収載の重要生薬であり、専ら医薬品としておくことが望ましい。
43	カバ	カバカバ、カワカワ、シヤカオ 英名: kava, kavakava, kawa kawa, sakau	全草		<i>Piper methysticum</i> Forst. F.	Piperaceae コンショウ科	カバ、カバカバ、 カワカワ、シヤカ オ	× Com E	ビペルジンアルカロイド (pipermethysine)		Class 2b; 2c, 2d	向精神作用を持つkavalactonesを含む。
44	カラハル豆	英名 Calabar bean	豆		<i>Physostigma venenosum</i> Balfour	Leguminosae マメ科		○	アルカロイド約0.5%を含み physostigmine (= eserine)を 主成分とする。	Physostigmine LD50: 7.1 µg/kg - 20 mg/kg	A	毒性の強い physostigmineを含む。
45	カロコ<積根>	①オオカラスクリ ②キカラスクリ ③シナカラスクリ	根	果実・種子は 「非医」	①Trichosanthes bracteata Voigt ②T. hirtellii Maxim. var. ipponicum Kitamura ③T. hirtellii Maxim.	Cucurbitaceae ウリ科	①オオカラスクリ ②キカラスクリ ③シナカラスクリ	①②③局方	③Trichosanthin	Trichosanthin: LD50 = 5.9 mg/kg (mouse, subcutaneous)	Class 1	毒性タンパク質であるtrichosanthinを含む。
46	カロライナジャスミン	英名 Yellow Jessamine	全草		①Gelsemium sempervirens Aiton ②G. elegans Benth.	Loganiaceae ①マナン科 ②フジツクギ科	①カロライナジャ スミン、ゲルゼミウ ム ②コウアム	①Com E	ゲゼルミン等 gelsemine, sempervirine indole alkaloid含有	oral child LDLo 7.4 mg/kg ② 1.5mg/kg i.p. mouse	A	有毒アルカロイドを含む。
47	カララケ		菌糸体	子実体は「非 医」	<i>Coriolus versicolor</i> (Fr.) Quel	Polyporaceae カララケ科		○			B	免疫賦活剤クレスチンの産生菌糸体である。
48	カンショウコウ <甘松香>	英名 jatamansi, nard, spikenard	根		①Nardostachys jatamansi DC., ②N. chinensis Batalin	Valerianaceae オミナエニ科	カンショウコウ	×		essential oil i.p. LD50 900mg/kg , mouse, i.v. dog. LD50: 93mg/kg (劇薬相当); extract i.p. rat LD50: 353mg/kg	Class 2b	精油の毒性が劇薬相当。
49	カントウカ<数冬花>	フキタン根 英名 Coltsfoot leaf	花蕾	葉・幼若花蕾 は「非医」	<i>Tussilago farfara</i> L.	Compositae キク科	カントウ、フキタン 根、フキタン ラ	Com E	Senkirkine/Tussilagine (Pyrrolizidine alkaloid) necene (pyrrolizidine alkaloid) tumorigenic: tumorigenic data intra-peritoneal rat, TDLo 300mg/kg	oral, rat TDLo 4800g/kg	Class 2b, 2c, 2d	腫瘍形成作用をもつ有毒アルカロイドsenkirkine を含む。Commission E及びFBSHでの記載に禁忌 がある。
50	カンボウ<新防己>	シマハスノハコ ラ	茎・根茎		<i>Stephania tetrandra</i> S. Moore	Menispermaceae ツツジ科	シマハスノハコ ラ	×	tetrandrin LD50 41.3 mg/kg i.p. mouse	i.p. mouse LD50 113mg/kg	Class 1	劇薬tetrandrinを含むこと及び、aristolochic acidを 含むAristolochia属の生薬との取り違えが起こる 可能性がある。各称カンボウは、基原に混乱を 生じおそれがあり、シマノハコラスラを名称とすべ き。
51	カンラン<橄欖>	英名 white Chinese olive	果実		<i>Canarium album</i> (Lour.) Raeusch.	Bursaceae カンラン科	カンラン	×	Canarium manii, C. bergiense i.p. mouse 1g/kg以上		Class 1	仁、果実とも食の薬材があること及び、同属植物 のLD50値より、食薬区分別の見直しの対象となると 考えられる。



64	ケン<柎子>	ケン<柎子>	英名 opium poppy	全草(発芽防止処理された種子・種子油は除く)	発芽防止処理された種子・種子油は除く 「非医」	<i>Papaver somniferum</i> L.	Papaveraceae ケン科	ケン	局方	morphine, thebaine, codeine papaverine, noscapine, protopine, cryptopine	morphine, thebaine, codeine (麻薬)	morphine: TLD0 107mg/kg (mouse subcutaneous), thebaine: LD50 114mg/kg (rat oral); LD50 54mg/kg (mouse oral), LD50 20mg/kg (mouse ip)	class I (seed)	A	麻薬成分を含有し、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
65	ケンゴシ<牽牛子>	アサガオ	アサガオ	種子	葉・花は「非医」	<i>Pharbitis nil</i> Choisy	Convolvulaceae ヒルガオ科	アサガオ	局方			急性毒性データ無し	A	A	樹脂配糖体のpharbitininは峻下作用があり、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
66	ゲンジン<玄参>	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	根	葉・花は「非医」	① <i>Scrophularia ningpoensis</i> Hemsl. ② <i>S. buergeriana</i> Miq.	Scrophulariaceae ゴマノハグサ科	①スクロフロリア・ニホエンシス ②ゴマノハグサ	局外生規			① root, ethyl acetate extract: TLD0 75mg/kg (mouse oral)	B	B	局外生規に収録され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。
67	ゲンチアナ	ゲンチアナ	英名 gentian, gentian root	根・根茎	花は「非医」	<i>Gentiana lutea</i> L.	Gentianaceae リンドウ科	ゲンチアナ	局方 Com E			svertianin: LD50 >1g/kg (mouse oral)	class 2d	B	局方に収録されており、ヨーロッパ等においても医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品と考えられる。
68	ゲンシヨウコ	ゲンシヨウコ		地上部		<i>Geranium thunbergii</i> Siebold et Zucc.	Geraniaceae アワソウ科	ゲンシヨウコ	局方			extract : oral LD50 10 g/kg以上, mouse, rat	B	B	局方に収録されており、ヨーロッパ等においても医薬品として使用実態があるため専ら医薬品と考えられる。
69	コクアツ<香附子>	サンワ、ハマズグ	サンワ、ハマズグ	根茎		<i>Cyperus rotundus</i> L.	Cyperaceae カヤツリグサ科	ハマズグ	局方			extract : i.p. LD50 50 mg/kg, rat	class I	A	エキスが劇薬相当であることから安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
70	コクアツ<駒兜>	コマントウ	コマントウ	全草		<i>Gelsemium elegans</i> Benth.	Loganiaceae マダニ科	コマントウ	局方 x (中国では根及び根皮を薬用)			extract : i.p. LD50 25 mg/kg, mouse	A	A	有毒アルカロイドを多数含み、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
71	ホウキ<厚朴>	ホウキ	樹皮			① <i>Magnolia obovata</i> Thunb. ② <i>M. officinalis</i> Rehder et Wilson ③ <i>M. officinalis</i> Rehder et Wilson var. <i>biloba</i> Rehder et Wilson	Magnoliaceae モクレン科	①ホウキ ②カラホオ、シナホウキ	局方			conyuberine : i. p. LD50 19.6 mg/kg, mouse	A	A	ベンジルイキノリンアルコールを多数含み、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
72	コクホン<菝葜>	コクホン<菝葜>	根・根茎			① <i>Ligusticum sinense</i> Oliv. ② <i>L. jeholense</i> Nakai et King.	Umbelliferae セリ科	①コクホン ②ムレイセンキウ	局外生規			①root extract: LD50 42.5 mg/kg (mouse ip)	Class I	A	エキスを劇薬相当の毒性があり、安全性に充分な配慮が必要であるため専ら医薬品と考えられる。
73	コクワレン<胡黄连>	コクワレン<胡黄连>	茎・根茎			① <i>Picrois kurroa</i> Royle ex Benth. ② <i>P. scrophulariiflora</i> Pennell	Scrophulariaceae ゴマノハグサ科	①コクワレン	局外生規 x			extract : oral LD50 1288 mg/kg, mouse	E	E	日本において医薬品としての使用実態はなく、エキスのLD50値を考慮すれば食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。
74	ゴールデンシール	カナダヒドラスチス 英名 goldenseal	根茎			<i>Hydrastis canadensis</i> L.	Ranunculaceae キンポウゲ科	ヒドラスチス	局外生規 x USP Dietary supplement, American Herbal Pharmacopoeia に記載			hydrastinine : i. p. LD50 100 mg/kg, rat	class 2b	A	劇薬相当のhydrastinineを含有することから安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
75	コクモヨウ<越橘>	コクモモ	葉		果実は「非医」	<i>Vaccinium vitis-idaea</i> L.	Ericaceae ツツジ科	コクモモ	局外生規 x 民間薬			arbutin: TLD0 13.6 g/kg (rat oral)	D	D	安全性に関するデータが認められないため、現在のところ判断データがないと考えられる。

76	ゴジツツ<牛膝>	イノコズチ、ヒナダイノコズチ	根	① <i>Achyranthes fauriei</i> Leveille et Vaniot ② <i>A. bidentata</i> Blume	Anaranthaceae ヒユ科	①ヒナダイノコズチ ②ホンゴシユユ	局方	② <i>A. bidentata</i> の根は0.001%のアルカロイドを含んでいるとの報告があるが、構造は不明。	②Extract LD50 = 147 g/kg mouse, oral inokosterone, LD50>9g/kg (mouse, oral)	B	局方収載生薬であるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。構造不明のアルカロイドを含むが、含量が低く、また抽出物の毒性が低い。
77	ゴシユユ<呉茱萸>	ホンゴシユユ	果実	① <i>Evodia nitescens</i> Benham ② <i>E. officinalis</i> Dode	Rutaceae ミカン科	①エシユユ ②ホンゴシユユ	局方	インドールアルカロイドの evodiamine, dehydroevodiamine, rutecarpine (TDLo = 150 mg/kg bw, mouse, oral), higenamine (LD50 = 3350 mg/kg, mouse, oral), evocarpine, (-)-synephrine (TDLo = 1 mg/kg bw, mouse, subcutaneous)	①Crude extract: TDLo = 20 g/kg, mouse, oral	Class 2d	局方収載生薬であること、毒性の高い(-)-synephrineを含有すること、また、子宮収縮作用のあるアルカロイドが含有されていることから、専ら医薬品としておくべきである。
78	ゴシヨウココン<虎杖根>	イタドリ	根茎	<i>Reynoutria japonica</i> Houtt. = <i>Polygonum reynoutria</i> Makino = <i>Polygonum cuspidatum</i> Sieb. et Zucc.	Polygonaceae タデ科	イタドリ	x 民間薬			A	劇薬であるemodin及びphyscionの配糖体を含む。また、瀉下作用のあるemodin-8-glucosideを含む。
79	コハクイノハ	Copaifera officinalis	樹脂	コハクイノハ ( <i>Copaifera langsdorffii</i> ) の樹液は「非医」	Leguminosae マメ科		x		Balsam Copaiba: LD50 = 3.79 ml/kg, rat, oral	E	わが国においては医薬品としての使用実態がなく、β-carophylleneやα-copaenaneなど、含有成分の毒性も低い。また、「非医」に収載の <i>Copaifera langsdorffii</i> と区別して取り扱うことも困難である。そのため、食薬区分の見直し対象になり得ると考えられる。
80	ゴハクイン<五倍子>	ヌルデ	糞状虫糞	<i>Rhus javanica</i> L.	Anacardiaceae ウルシ科	ヌルデ(フシノキ)	x		tannic acid: LD50 = 2260 mg/kg bw (rat, oral)	E	わが国における使用実態は民間薬としてのものがあるのみで少ない。毒性も低く、食薬区分の見直し対象になり得ると考えられる。
81	コハク<琥珀>	古代マツ科植物樹脂の化合物		<i>Pinus</i> 属	Pinaceae マツ科		○ 中薬、一般薬		abietic acid: LD50 > 5g/kg bw (rat, oral)	E	わが国においては医薬品としての使用実態がほとんどなく、abietic acidやsuccinic acidなどが含有成分の毒性も低い。そのため、食薬区分の見直し対象になり得ると考えられる。
82	ゴボウシ<牛蒡子>	ゴボウ	果実	<i>Arctium lappa</i> L.	Compositae キク科	ゴボウ、キタイス、キタクス、ウマフブキ	局方 Com E		Extract: LD50 = 681 mg/kg, mouse, i.p.	B	局方に収載されているのみでわが国では明らかに医薬品として使用されているため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。
83	ゴボミシ<五味子>	チョウセンゴボミ	果実	<i>Schisandra chinensis</i> Baill.	Schisandraceae マツブサ科	チョウセンゴボミ	局方		チンキ: LD50 = 4 ml/kg, mouse, oral	B	局方に収載されており、210処方中の重要処方として使用されるなど医薬品としての使用実態があり、また、biphenyl dimethyl dicarboxylate発見の取扱いとなった生薬であるため専ら医薬品としておくことが望ましい。
84	コロシントウリ	英名 colocynth	果実	<i>Citrullus colocynthis</i> Schrad.	Cucurbitaceae ウリ科		Com E		elateride: LD50 orally in mice 40 mg/kg body-weight, cucurbitacin E: LD50 orally in mice 340 mg/kg body-weight	A	峻下剤であり、また、毒性の強いクルビドタンニン誘導体を含む。
85	コロシボ	根	根	<i>Jatropha columba</i> Miers	Menispermaceae ツツジ科		局方	ベルベリン系アルカロイドを含む、palmatine, jatrorrhizine, columbamineが知られている。	palmatine: LD50 = 135 mg/kg bw (mouse, subcutaneous)	A	局方収載の医薬品であり、ベルベリン系アルカロイドであるpalmatine, jatrorrhizine, columbamineを含む。

86	コンズランゴ	樹皮		<i>Marsdenia condurango</i> Reichbach fil.	Asclepiadaceae カガイモ科		局方 Com E	Yesconduranguglycoside A <sub>0</sub> (抗腫瘍活性を持つ)、 conduranguglycoside C <sub>0</sub>		conduranguglycoside A <sub>0</sub> , LD50 = 75 mg/kg (mouse, method unreported) conduranguglycoside C <sub>0</sub> , LD50 = 375 mg/kg (mouse, method unreported)	A	局方に取載されているなど使用実態がある。抗腫 瘍活性をもつconduranguglycosidesの含有が知ら れている。特にconduranguglycosides A <sub>0</sub> の毒性は 劇薬相当である。
87	サイコ<紫胡>	根	ミヤマサイコ	<i>Bupleurum falcatum</i> L.	Umbelliferae セリ科	薬は「非医」	局方 シマサイコ (カマクフラサイコ)		Class I	Crude saikosides: LD50 = 4700 mg/kg (mouse, oral), LD50 = 1114 mg/kg (mouse, intraperitoneal) Extract: LD50 = 50 mg/kg (rat, intraperitoneal)	A	局方取載であり、主要な漢方処方に使用されるな どわが国で医薬品として製用されている。また、 抽出物が劇薬相当の毒性を示すとのデータが発 表されている。したがって、専ら医薬品としておく べきである。
88	サイシン<細辛>	根・根茎	①ウスバサイシン ②ケイリンサイシン	① <i>Asiasarum sieboldii</i> F. Mackawa ② <i>A. heterotropoides</i> F. Mackawa var. <i>manshuricum</i> F. Mackawa	Aristolochiaceae ウラボシ科	薬・葉は「非 医」	局方 ①ウスバサイシン ②ケイリンサイシン	bigenamine (LD50 = 3350 mg/kg, mouse, oral)			A	局方に取載されている、わが国で製用される重 要な医薬品であること、アルカロイドbigenamineを 含有していること、地上部に毒性の強いアリストロ キア科を含有していることから、専ら医薬品として おくべきである。
89	サビテ<呉柏>	枝葉・球果		<i>Juniperus sabina</i> L.(= <i>Sabina vulgaris</i> Antoine)	Cupressaceae ヒノキ科		○	podophyllotoxin 類縁体であ るdeoxypodophyllotoxin, deoxypicropodophyllotoxin, β-peltatin A methyl ether			A	劇薬相当のpodophyllotoxinの類縁体を含む。
90	サヨウ<鎮痛>	全草	オンヤグジタケ	<i>Cynomorium coccineum</i> L.	Cynomoriaceae オンヤグジタケ科 キルモリア科		× CP取載			LD50 = 9400 mg/kg (mouse, oral), TDLo = 2820 mg/kg (rat, oral)	E	国内においては医薬品としての使用実態がなく、 また毒性も低い。
91	サルカガミカン	茎	サラカチ (サラカキ)	<i>Toddalia asiatica</i> Lam.	Rutaceae ミカン科		×	berberine, toddalinoline, benzo(c)phenanthridine alkaloids, 4 known quinoline alkaloids		i.p. mouse > 1 g/kg berberine sulfate trihydrate i.p. mice 24.3 mg/kg (merck), RTECS berberine HCl 2H <sub>2</sub> O, LD50: i.p. rat 138 mg/kg 他	A	毒性が高いと考えられるアルカロイドが多数入っ ている。
92	サルサ	根	①サルサハバラ 英名 Sarsaparilla ②サルトリイバラ	① <i>Smilax aristolochifolia</i> , <i>S. regalis</i> , <i>S. febrifuga</i> 等 ② <i>Smilax china</i>	Smilacaceae サルトリイバラ科 or コリ科、 Liliaceae	薬は「非医」	局方 Com E 生薬サンキライ ( <i>S. glabra</i> )は局 方には和名ない が、藤波和漢薬 図鑑にはケナン サルトリイバラと ある			<i>Smilax zeylanica</i> : i.p. mouse LD50 825 mg/kg; <i>S. wightii</i> , i.p. mouse LD50 > 1g/kg, <i>S. prolifera</i> : i.p. mouse LD50 > 1g/kg; <i>S. parviflora</i> , i.p. rat LD50 1g/kg; <i>S. menispermoides</i> : i.p. rat LD50 1g/kg; <i>S. glaucophylla</i> i.p. mouse LD50 1g/kg	E	サンキライを除いて、わが国では医薬品としての 実態がなく、また、ルートビア等の飲料にも用 いられており、通常の摂取量では、安全性に特に 問題があるとは考えられない。なお、サルサ及び サルサハバラでは植物が特定できず、混乱を招く ので、判断の範囲を <i>Smilax glabra</i> 以外の <i>Smilax</i> 属とするのが適切である。
93	サワギキョウ	全草		<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	Campanulataceae キキョウ科		×	The total alkaloid content of <i>L. sessilifolia</i> L. is 0.135% Lobeline (?). <i>Lobelia inflata</i> は研究されているがサワギ キョウは不明。アルカロイド 含有の可能性高い。	<i>L. inflata</i> は 2b, 2d	A	アルカロイド含有量が高く、neurotoxicなlobellineが 入っている可能性が高い	



101	ジコンビ<地膚皮>	クコ	根皮	果実・葉は「非医」	<i>Lycium chinense</i> Müller	Solanaceae ナス科	クコ	局方第二追加記載			i.p. mouse LD50 > 1g/kg	Class 2b	A	ACE阻害活性を持つ降圧作用ペプチドを含有し、また局方に収載されている重要生薬である。
102	シコン<紫根>	ムラサキ	根		<i>Lithospermum erythrorhizon</i> Steh. et Zuccarini	Boraginaceae ムラサキ科	ムラサキ	局方			oral mouse LD50 > 10g/kg, i.p. mouse 40mg/kg <i>L. californicum</i> alkaloidal extract rat oral LD50 90mg/kg, oral mouse 20mg/kg	Alkanna <i>lincrobia</i> は Class 2c	B	局方収載の重要な生薬である。
103	シツリシ<疾藜子>	ハマビシ 英名 cantrop	果実		<i>Tribulus terrestris</i> L.	Zygophyllaceae ハマビシ科	ハマビシ	局方14局第二追加記載	Alkaloids and other constituents from <i>Tribulus terrestris</i> : terribisamide, 25R-spiro-4-en-3,12-dione, and tribulasterine, together with other known compounds, N-p-coumaroyltyramine, terribisamide, hecogenin, aurantiamide acetate, xanthosine, ferulic acid, vanillin, p-hydroxybenzoic acid, and $\beta$ -sitosterol	(部位不明、extract) 56.4mg/kg i.p. rat: Reproductive effect (leaf caltrop), goat and sheep, oral TDLO 111g/kg		A	$\beta$ -カルボリンアルコールを含有し、植物の部位不明であるが、劇薬相当の毒性データがある。	
104	シタイ<柿蒂>	カキ(柿)	果実の宿存した がく(へた)		<i>Diospyros kaki</i> Thunberg	Ebenaceae カキ科	カキ	局外生規			i.p. mouse 681mg/kg		E	毒性データ、含有成分の両者から考えて安全性に問題はないと判断するが、積極的に食品として使用されているわけではない。
105	シヤクヤク<芍薬>		根	花は「非医」	<i>Paeonia lactiflora</i> Pallas	Paeoniaceae ボタン科	シヤクヤク	局方			i.p rat 700mg/kg, i.p. mouse 795mg/kg (root extract)	<i>P. lactiflora</i> , <i>P. officinalis</i> , class 1, <i>P. suffruticosa</i> (ボタン)	B	局方に収載され、また多岐の処方で使用される重要な医薬品である。
106	シヤンショウ<蛇床>	オカセリ、 オカブシヤミ	果実、茎、葉	果実はシヤンショウといふ	<i>Cnidium monnieri</i> (L.) Cusson	Umbelliferae セリ科	オカセリ、 ジャシヨウ	局方			osthol: LD50 2905 mg/kg (rat oral)	Class 1	B	アルコール等は含有していないが、局方収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品としておくことが望ましい。
107	シユクシヤ<縮砂>	シヤンシ(砂仁)、 シユクシヤミン	種子の塊、成熟果実	シヤンシ(砂参)の根は「非医」	<i>Anomum xanthioides</i> Wall.	Zingiberaceae シヨウガ科	アモムムキヤン アオイデス	局方				Class 1 ( <i>Amomum melegreta</i> Roscoe, <i>A. iso-co</i> Crev. et Lem.)	B	アルコール等は含有していないが、局方収載生薬で多岐の漢方処方にも使用されている重要生薬である。
108	シヨウブロン<昌蒲根>	カラムスコン、 シヨウブ	根茎	添用煎製造原料	① <i>Acoris calamus</i> L. var. <i>asiaticus</i> Pers. ② <i>Acoris gramineus</i> Sol.	Araceae サトイモ科	①シヨウブ ②セキンヨウ	○中国薬典記載			エキスLD50 777mg/kg (rat. oral)	Class 1	A	医薬品としての使用実績が乏しいが、動物実験において薬がんに性が報告されている $\beta$ -asaroneを含有する医薬品とすべきである。
109	シヨウボクヒ	クスギ	樹皮		① <i>Quercus acutissima</i> Cruthers ② <i>Q. variabilis</i> Blume ③ <i>Q. Mongolia</i> Fischer ex Turczaninow var. <i>Grosseserrata</i> Rehder et Wilson ④ <i>Q. serrata</i> Murray	Fagaceae ブナ科	①クスギ ②アベマキ ③ミスナラ ④コナラ	①④局外生規				Class 2d ( <i>Quercus alba</i> L., <i>Q. robur</i> L., <i>Q. petraea</i> (Mattuschka) Liebl.)	B	アルコール等は含有していないが、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており、Botanical Safety Handbook においても様々な禁忌が報告されているため専ら医薬品とすることが望ましい。また、部位を考慮すると他名等にボクヤクを記載する必要はあると考えられる。

110	シヨウマ<升麻>	サラナンシヨウマ	根茎	アカンゴウマの根は「非医」	① <i>Cimicifuga simplex</i> Wormskjörd ② <i>C. foetida</i> L. ③ <i>C. heracleifolia</i> Komar. ④ <i>C. daturica</i> (Turcz.) Maximowicz	Ranunculaceae キンポウゲ科	①サラナンシヨウマ(ヤサイシヨウマ) ②ウライシヨウマ ③オオモツバシヨウマ ④アブキシヨウマ	①②③④ 局方	①2-hydroxy-7-methyl-9H-carbazole ④ 3-(3-methyl-2-butenylidene)-2-indolinone, cimicifugamide (phenethylamine)	②エキス:LD50 1 g/kg (rat, ip) ④エキス:LD50>2500 mg/kg (mouse, oral)	②Class 2d	アルカロイド成分並びに中枢抑制作用を示す成分を含有するため、安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
111	シヨウリク<商陸>	ヤマゴボウ	根	ヤマゴボウ( <i>Cirsium dipsacolepis</i> )の根は「非医」	① <i>Phytolacca esculenta</i> Van Houthe ② <i>P. achnosa</i> Roxb. ③ <i>P. insularis</i> Nak.	Phytolaccaceae ヤマゴボウ科	①ヤマゴボウ ②タケケンヤマゴボウ	x ②CP収載	lectin	phytoracosside B: 4.5 mg/kg (mouse, iv), phytoracosside E: 486 mg/kg (mouse, ip)	A	毒性の強いphytoracosside Bを含有するため専ら医薬品と考えられる。
112	シンノイ<辛夷>	コブシ、タムシバ	花蕾		① <i>Magnolia kobus</i> DC. ② <i>M. denudata</i> Desr. ③ <i>M. salicifolia</i> (Sieb. Et Zucc.) ④ <i>M. sprengei</i> Pamp.	Magnoliaceae モクレン科	①コブシ ②ハクモクレン ③タムシバ ④マダリア・スプレングリア	局方	①②③salicifoline (phenylethylamine) ④magnosprangerine (phenylethylamine)	アルカロイド成分を含有しており局方収載の重要な医薬品であることから、専ら医薬品としておくことが望ましい。	B	アルカロイド等の成分は含有されおらず、局方および局外生規にも収載されていないが、漢方処方にて配合されており、査証録がないため専ら医薬品としておくことが望ましい。
113	ジンコウ<比叢>	材、樹脂			① <i>Aquilegia agallocha</i> Roxb. ② <i>A. sinensis</i> (Lour.) Ghig.	Thymelaeaceae ジンチョウゲ科	①ジンコウ ②アキラリア・シネンシス	○ 一般薬	gentianine, gentianidine, gentiabinetne (pyridine type)		Class 2d	アルカロイド成分を含有しているため安全性に充分な配慮が必要であり、またCommission Eにて収載されヨーロッパでは医薬品原料であることから専ら医薬品と考えられる。
114	スイサイ<睡菜>	葉			<i>Menyanthes trifoliata</i> L.	Genitaceae リンドウ科	ミツガシワ	Com E			A	アルカロイド成分を含有しているため安全性に充分な配慮が必要であり、またCommission Eにて収載されヨーロッパでは医薬品原料であることから専ら医薬品と考えられる。
115	スカルキヤップ	根		根以外は「非医」	<i>Scutellaria laterifolia</i> L.	Labiatae シソ科		x			Class 1	我が国では使用実態がないが、毒性データを考察するための成分に関する報告も少なく、今後さらに含有成分に関する研究を行う必要性があると考えられる。
116	スズラン<鈴蘭>	全草		根と根茎に毒成分が多い	① <i>Convallaria majalis</i> L. ② <i>Convallaria majalis</i> L. var. <i>keriskei</i> (Miq.) Makino	Liliaceae ユリ科	①トリスズラン ②スズラン	Com E	convallatoxin, 2-acetildicarboxylic acid	エキス:LDLo 208 ug/kg (guinea pig, iv), convallatoxin : LD50 (cat, ip) 0.2 mg/kg	Class 3	毒薬相当のconvallatoxinおよびアルカロイド成分を含有しているため安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
117	セイコウ<青蒿>	葉	葉・帯花枝葉		① <i>Artemisia apiacea</i> Hance ② <i>Artemisia annua</i> L.	Compositae キク科	①カワラニンジン ②クニンジン	x ②中国薬典	6-amino-7,8-dihydro-2-hydroxypurine	arteanuin: LD50 5576 mg/kg (rat, oral)	Class 2b	アルカロイド成分を含有しており、またBotanical Safety Handbookにおいて禁忌が報告されていることから安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
118	セイヨウカンザンシヨウ	葉		果実は「非医」	① <i>Crataegus oxyacantha</i> L. em. Jacq. ② <i>C. laevigata</i> (Poir.) DC. ③ <i>C. monogyna</i> Jacq.	Rosaceae バラ科	セイヨウカンザン	x ②③Com E		エキス: LD50 250 mg/kg (rat, ip)	②③ Class 1	我が国では医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも医薬品区分の見直し対象と成り得ると考えられる。
119	セイヨウトチノキ	種子		樹皮・葉・花・芽は「非医」、トチノキの種子は「非医」	<i>Aesculus hippocastanum</i> L.	Hippocastanaceae トチノキ科	セイヨウトチノキ	Com E	<i>Aesculus hippocastanum</i> antimicrobial protein 1, dicoumaroylspermidine, dicaftoylspermidine	extract: LD50 55 mg/kg (ip, mouse), 30 mg/kg (iv, rabbit), triterpen saponins mixture: 164 mg/kg (po, mouse)	A	エキス及びサポニン成分に劇薬相当の毒性を有しており、また医薬品としての使用実態があることから専ら医薬品とすべきである。
120	セイヨウヤドリギ	枝葉梢・茎・葉・茎・葉			① <i>Yucca album</i> L. ② <i>Y. coloratum</i> (Kom.) Nakai, ③ <i>Loranthus parasiticus</i> (L.) Merr., ④ <i>L. yadoriki</i> Seib.	Viscaceae ヤドリギ科	セイヨウヤドリギ	①Com E	viscotoxin (peptide), viscumamine, kymenine, 2,6-diamino-5-hydroxyhexanoic acid	エキス: LD50 250 mg/kg (mouse, ip)	Class 2b,2d A	アルカロイド成分並びに心筋系に対する毒性を示すviscotoxinを含有し、Botanical Safety Handbookにおいて様々な禁忌が報告されており、医薬品としての使用実態があることから安全性に充分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

121	セキイ<石菖>	ヒトツバ	全草		Pyrosalia属 主として ① <i>P. lingua</i> Farw., ② <i>P. grandisima</i> , ③ <i>P. peltata</i> , ④ <i>P. hastata</i> Ching	Polypodiaceae ウラボシ科	①ヒトツバ ②オオヒトツバ ③コヒトツバ ④イワオモダカ	x				未収録 同属 <i>P. subinflureacea</i> Seem's LD50 > 1 g/kg bw		E	わが国における使用実態はほとんどないが、毒性も低く、医薬区分の見直し対象になり得ると考えられる。
122	セキサン<石菖>	ヒガンバナ、 マンジュエシヤガ	鱗茎		<i>Lycoris radiata</i> Herb.	Amaryllidaceae ヒガンバナ科	ヒガンバナ、 マンジュエシヤガ	○	Amaryllidaceae alkaloids (hippeastrine, lycoramine, lycorrhidine, lycorine, pretazettine, homolycorine, lycoramine, tazettine, galanthamine)を含み、有毒。 吐き気を催す。		lycoramine (LD50 = 765 mg/kg bw, mouse, oral) lycorine (LD50 = 10.7 g/kg bw, mouse, oral, 145 mg/kg bw, mouse, subcutaneous) pretazettine (LD50 = 47 mg/kg bw, rat, i.v.) lycoramine (LD20 = 1.01 mg/kg bw, rat, i.p.) tazettine (LD50 = 320 mg/kg bw, mouse, i.p.) galanthamine (LD50 of hydrobromide = 18.7 mg/kg bw, mouse, oral, LD50 = 10 mg/kg bw, mouse, i.p.)	A	A	含量は低いものの、莖葉相当のlycoramine, galanthamineやその他のヒガンバナナアルカロイドを含む。	
123	セキショウコ <石菖根>	セキショウ	根茎	葉は「非医」	<i>Acorus gramineus</i> Solander	Araceae サトイモ科	セキショウ			局外生規	Extract: LD50 = 540 g/kg bw (mouse, oral).	Class 2b, 3	A	局外生規に収載され、日本では医薬品として認識されている。また、カナダでは食品への使用を認められていない。	
124	セキナンヨウ <石菖葉>	オオカカナメモチ、 シヤクナガ	葉		① <i>Rhoadodendron metternichii</i> Sieb. et Zucc. var. <i>hondoense</i> Nakai ② <i>R. degonianum</i> Carr. ③ <i>Phalonia serrulata</i> Lindl.	①②Ericaceae ツツジ科 ③Rosaceae バラ科	①シヤクナガ ②アズマシヤクナ ガ ③オオカカナメモチ	○	①②grayanotoxin I grayanotoxin Iは強毒性の有 毒成分で、中毒量では悪 心、嘔吐、痙攣、手足の麻 痺、呼吸困難などが起こり、 心臓麻痺に陥り死に至る。 服用量に注意を要する。		①②RTCS未収録。同属で最も 低いのはExt. of <i>R. thomsonii</i> : LD50 = 56.2 mg/kg bw (mouse, i.p.) grayanotoxin I (LD50 = 1.31 mg/kg bw, mouse, i.p.) ③RTCS未収録。同属で最も低 い <i>P. serratifolia</i> がLD50 = 464 mg/kg bw (mouse, i.p.)	A	A	石南葉として使用される植物種のうち2種に毒性の強いgrayanotoxin Iの含有が知られている。	
125	セッコク<石斛>	ホンセッコク	茎		<i>Dendrobium</i> 属など	Orchidaceae ラン科	コウキセッコク、 セッコク、 サクラセッコク、 ホンセッコク、 キバナセッコクな ど		セッコク属の成分としてセス キアルベニンアルカロイドの dendrobine (0.33~0.5%), dendramine, nobilin (=nobilonine), dendroxine, dendrine, 6-hydroxydendroxine, N-methylendendrobineが知ら れている。		同属 <i>D. crumenatum</i> Sw., extract: LD50 > 1 g/kg bw dendrobine: LDLo = 17 mg/kg bw (rabbit, i.v.)	D. <i>nobile</i> Lindl. の全 草はClass 1	A	医薬品としての使用実態があり、大量に服用すると毒性を示すアルカロイド、dendrobineを含有するため、専ら医薬品としておくことが適当である。	
126	セネガ	ヒロハセネガ 英名 Senega snakeroot	根		① <i>Polygala senega</i> L. ② <i>P. senega</i> L. var. <i>latifolia</i> Torrey et Gray	Polygalaceae ヒメハギ科	①セネガ ②ヒロハセネガ	局方 Com E				Class 2b, 2d	A	局方収載の重要な医薬品であり、また、長期間服用すると胃腸に炎症を起すことが知られているため、専ら医薬品としておくべきである。	
127	センキウ<川芎>	根茎	根茎	葉は「非医」	<i>Cnidium officinale</i> Makino	Umbelliferae セリ科	センキウ	局方					B	B	毒性は知られていないが、局方に収載される重要な生薬であり、また多岐の処方に使用されている。
128	センコ<前胡>	根	根		① <i>Pencelatum praeruptorum</i> Dunn ② <i>Angelica decursiva</i> Franchet et Savatier	Umbelliferae セリ科	②ノダケ	局外生規				①同属の <i>P. dhiana</i> はLD50 = 48 mg/kg bw (mouse, i.p.)だが、“ extract excluding roots”	B	B	毒性は知られていないが、局外生規に収載され、漢方210処方中にも配合される重要な生薬である。

センコン<川骨>	コウホネ	根茎	茎は「非医」	<i>Niphar japonicum</i> DC.	Nymphaeaceae スイレン科	コウホネ(カワホネ)	局方	セスキテルペンアルカロイド: deoxynupharidine (= α-nupharidine), nupharidine, nupharamine, dehydrodeoxynupharidine, nupharamine, anhydronupharimine					A	中枢麻痺作用のあるdeoxynupharidineを含む。
129	センコン<草>	根	センコン<山草>の全草は「非医」	① <i>Rubia akane</i> Nakai ② <i>R. cordifolia</i> L.	Rubiaceae アカネ科	① アカネ ② アガミアアカネ	○ OTC薬		② Extract: LD50 > 1 g/kg bw (mouse, oral)				A	発ガン性があるために食品添加物としての使用が禁止されたセイヨウアカネ <i>M. tinctorum</i> の同属植物である。Lucidin primeverosideに強い変異原性が知られている。アカネにも lucidin primeveroside が含まれており、その他にもセイヨウアカネと共通する成分が多いことから、専ら医薬品とすべきである。
131	センタウリウラムソウ	全草		<i>Centaurium minus</i> Moench (= <i>Erythraea centaurium</i> Pers., <i>Centaurium umbellatum</i> Gilbert, <i>Centaurium erythraea</i> Raf.)	Gentianaceae リンドウ科	センタウリウラムソウ	× Com E					Class I ( <i>C. erythraea</i> Raf.)	E	日本では医薬品としての使用実態がない。 Botanical Safety HandbookでもClass Iであり、問題のある化合物は知られていない。
132	センダン<苦楝子>	果実・樹皮		① <i>Melia azedarach</i> L., ② <i>M. azedarach</i> L. var. <i>subtrispinata</i> Miq., ③ <i>M. roseniana</i> Steb. et Zucc.	Meliaceae センダン科	① トキウセンダン ② センダン ③ トウセンダン	○	limonoids: meliatoxin A1, A2, B1, B2	① bark extract: LD50 = 250 mg/kg bw (mouse, i.p.) ② extract: LD50 = 221 mg/kg bw (mouse, oral), LDLo = 20 mg/kg bw (human child, oral) meliatoxin A1, A2, B1, B2: いずれも LD50 = 6.4 mg/kg bw (pig, oral), LD50 = 16 mg/kg bw (mouse, i.p.)		Class 3	A	センダンとして使用される <i>Melia roseniana</i> の抽出物が経口投与で劇薬相当の毒性を示す。本来のセンダンである <i>M. azedarach</i> 果実に含有される meliatoxins は経口投与で毒薬相当の毒性を示す。	
133	センナ	果実・小葉・葉・葉柄	茎は「非医」	① <i>Cassia angustifolia</i> Vahl ② <i>C. acutifolia</i> Delle	Leguminosae マメ科	① チンネベリ・センナ ② アレキサンドリ ア・センナ	局方 Com E		extract of <i>Cassia semina</i> L.: LD50 = 681 mg/kg bw (mouse, i.p.)		<i>Senna alexandrina</i> P. Mill. (= ①+②), <i>S. obtusifolia</i> (L.) Irwin & Barneby, <i>Senna tora</i> (L.) Roxb. (カワラクツメイ) について 葉: Class 2b, 2c 果実: Class 2b, 2c, 2d	A	局方収載の重要な生薬であり、また、強い瀉下作用と刺激作用があるため、専ら医薬品としておくべきである。	
134	センブツカカ<庭覆花>	花		<i>Inula britannica</i> L. var. <i>chinensis</i> Regel	Compositae キク科	オグルマ	×		同属で最も低いのは extract of <i>I. caprea</i> DC.: LD50 = 125 mg/kg bw (mouse, i.p.)		Class 1 (ただし, <i>I. britannica</i> L.), <i>I. elecampane</i> (f.), <i>I. heleniun</i> L.) は 2b, 2c	D	わが国における使用実態は少ない。有毒成分の含有も知られていないが、データ不足である。	

135	センブリ	トウヤク	全草	<i>Swertia japonica</i> Makino	Gentianaceae リンドウ科	センブリ	局方	モノテルペンアルカロイド: gentianine ( <i>Swertia</i> spp.) (LD50 = 500 mg/kg bw, mouse, oral) しかし、これは抽出時の artifactであると言われてい る。		mutation dataのみ	B	OTCにセンブリ散があるなど、わが国でよく使用さ れる重要な生薬であるため厚労省底薬品にしておく ことが望ましいが、毒性の強い成分の含有は知ら れていない。
136	ソウカ<菫果>		果実	<i>Annonium isao-ko</i> CREVOST et LEMAIRE	Zingiberaceae ショウガ科		x 生薬として中 国で流通 CP収載	6-formyl-2-hydroxy-3,4- pyridine		同属植物 <i>A. aculeatum</i> roxb. で i.p. mouse LD50 464 mg/kg	C	含有するアルカロイドの安全性について引き続き 調べる必要がある。
137	ソウシシ<蠟思子>	トウアズキ	種子	<i>Abrus precatorius</i> , L.	Leguminosae マメ科	トウアズキ	x	ribosome-inactivating protein (RIP) (リソンの仲間)である abrin A-Cアルカロイドとして abrine (N-Me Tryptophan)も 含む。		LD 50 i.p. mouse, 0.02mg/kg (単 離したLecicin), LD 50 oral rat 2711mg/kg (seeds)	A	A 猛毒なタンパク質を含む。
138	ソウジシ<蘇耳子>	オナモミ 英名 Cocklebur	果実	<i>Xanthium strumarium</i> L.	Compositae キク科	オナモミ	x 生薬として中 国で流通	carboxyatractyloside LD50 dosage (13.5 mg/kg)		i.p. mouse >100 mg/kg	A	A 劇薬相当のcarboxyatractylosideを含む。
139	ソウジュシ<蒼朮>	ホンソバオケラ	根茎	① <i>Atractylodes lancea</i> De Candolle, ② <i>A. chinensis</i> Kiudzymi	Compositae キク科	ホンソバオケラ	局方				B	局方に収載され、210処方中の57処方に使用され ている重要生薬である。
140	ソウジヨウ <草龍巻>	ハマウツボ	茎	<i>Orobanchae coerulescens</i>	Orobanchaceae ハマウツボ科	ハマウツボ、 キムラカケ	x 難波和漢薬 記載	Monoterpeneoid pyridine alkaloids (artifactでは?): boschniakine			E	含まれるとされるアルカロイドは、アーティファクト と考えられ、それ以外の成分も、特に危険なもの は報告されていない。(オニクも同属と考えられ る)
141	ソウハク<桑白皮>	クワ、マヅウ 英名 Mulberry Bark	根皮	① <i>Morus alba</i> L. ② <i>M. bombycis</i> Koidz.	Moraceae クワ科	①マヅウ ②クワ	局方	pyrrolidine alkaloid, nortropane alkaloids, polyhydroxylated piperidine alkaloids		i.v. mouse LD50 327 mg/kg	B	局方生薬であり各種アルカロイドを含む。
142	ソウボク<欒木>	シナタラシ	根、根皮、材	① <i>A. chinensis</i> ② <i>Aralia elata</i>	Araliaceae ウロギ科	①シナタラシ ②タラシ	②局外生現	②The root of <i>Dipsacus</i> asperoides contained venetamine and cantleyine. (含窒素イリドイド、アーティ ファクトの可能性が高い)		oral mouse LD50 1171mg/kg; i.p. mouse 59 mg/kg	E	LD50値が経口で大きく、安全性が高いと考えら れる。
143	ソクダン<續断>	センソクダン	根	( <i>Dipsacus</i> sp.)の根 ① <i>Dipsacus japonica</i> Miq., ② <i>Dipsacus asperoides</i> C.Y. Cheng et T.M. Ai ③ <i>Dipsacus asper</i> Wall	Dipsacaceae マツムシソウ科	①ナベナ ②クナナベナ 生薬名 ①續断 ③川續断	x 和漢薬として 使用			<i>D. strictus</i> LD50 i.p rat, > 1g/kg; <i>D. intermis</i> i.p. mouse, 681 mg/kg	E	近縁種がBotanical Safety HandbookでClass Iで あり、アルカロイドも、アーティファクトと考えられ、ま た毒性の有る化合物も報告されていない。
144	ソテツ		種子	<i>Cycas revoluta</i> Thunb	Cycaceae ソテツ科	ソテツ (雌雄異株)	x	cycasin (プノンド昔後配糖 体), neocycasin A, B, E		Cycasin MeNONCH2-O-Glc LD50 oral rat 270 mg/kg, oral rabbit 30mg/kg, oral guinea pig 20 mg/kg 変異原性 DNA damage, rat oral 56 mg/kg, mouse oral 50 mg/kg 発がん性 oral rat TDL0 100 mg/kg他多数	A	A 有毒な昔後配糖体Cycasinを含む。



155	チクショウ<竹節>		種の内層				Gramineae イネ科	②ハチク ③マダケ	局外生規						B	局外生規取載生薬で漢方処方にも配合されている。
156	チクセンニンジン <竹節人參>		根茎				Araliaceae ウコギ科	トチハニンジン	局方			chikusetsusaponin V: LD50 656mg/kg (mouse, ip); LD50 278mg/kg (mouse, iv) chikusetsusaponin IV: LD50 548mg/kg (mouse ip), LD50 343mg/kg (mouse, iv)	B	局方取載生薬で日本産の重要生薬である。		
157	チモ<知母>		根茎				Liliaceae ユリ科	ハナスゲ	局方			rhizoma water extract, methanol fraction: TDLo 90 mg/kg (mouse oral)	B	局方取載で210処方中13処方に配合される重要生薬である。		
158	チユ<地榆>		根・根茎				Rosaceae バラ科	フレモコウ、 ウマズイカ、 ダンゴバナ	○一般薬			Garden burnet: TDLo 2,744 g/kg (mouse oral)	E	医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも医薬品区分の見直し対象と成り得ると考えられる。		
159	チヨウセンアサガオ 英名 Angel's trumpet		種子、葉、花				Solanaceae ナス科	チヨウセンアサガ オ 本属として チヨウセンアサガ オ、 ニダチチヨウセン アサガオ、 シロバナチヨウセ ンアサガオ、 ヨウジュチヨウセ ンアサガオ	○医薬品原料 ○中国薬典			エキス: LD50 1275 mg/kg (mouse, po), atropine sulfate monohydrate: LD50 723 mg/kg (mouse, sc); LD50 56 mg/kg (mouse, iv) atropine hydrochloride: LD50 240 mg/kg (mouse, ip), atropine sulfate (1:1): LD50 78 mg/kg (mouse, iv) (-) hyoscyamine: LD50 95 mg/kg (mouse, iv), (+) scopolamine: LD50 154 mg/kg (mouse, iv)	A	毒薬指定のアトロピンが配合されている。		
160	チヨウトウコウ <釣藤幹>		とげ				Rubiaceae アカネ科	①カギカズラ ②トウカギカズ ラ、シナカギカズ ナ ③ナンカリア、マク ロブライ	局方			③extract: LD50> 1g/kg (mouse ip), rhyncophylline LD50 105mg/kg (mouse ip)	A	局方取載生薬で漢方処方にも配合されており、また劇薬相当に凶敵するアルカロイド成分も含有しているため、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。		
161	チヨレイ<猪苓>		菌核				Polyporaceae サルノコシカケ科	チヨレイマイタケ	局方				Class I	局方取載生薬で多くの漢方処方にも配合されており、重要生薬である。		
162	テンナンショウ <天南星>		塊茎				Araceae サトイモ科	①マイズルテンナ ンショウ ②クロハテンナン ショウ	局外生規			①エキス: LD50 159g/kg (mouse oral)	A	植物を誘食すると中毒症状を起し、局外生規取載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。		

163	テンマ<天麻>	オニノヤガラ	塊茎		<i>Gastrodia elata</i> Blume	Orchidaceae ラン科	オニノヤガラ, スズヒトノアシ	局方	<i>N,N</i> -bis(4-hydroxybenzyl)hydroxylamine, <i>S</i> -(4-hydroxybenzyl)glutathione		エキス: LD50 3.98 g/kg (mouse iv)	Class 1	B	アルカロイド等を含むし、局方収載生薬で漢方処方にも配合されている。
164	テンモントウ <天門冬>	クサスキカズラ	根	種子・葉・花は「非医」	<i>Asparagus cochinchinensis</i> Merrill	Liliaceae ユリ科	クサスキカズラ	局方				Class 1	B	局方収載生薬で漢方処方にも配合されている。
165	トウガン<冬瓜>	トウガ	種子	果実は「非医」	① <i>Benincasa cerifera</i> Savi, ② <i>B. cerifera</i> Savi forma <i>emarginata</i> K. Kimura et Sugiyama	Cucurbitaceae ウリ科	①トウガン, トウガ, カモカリ	局外生薬、 局方15局収 載予定	adenine, trigonelline		エキス: LD50 147mg/kg (mouse ip), trigonelline: LD50 5000mg/kg (mouse oil)	Class 1	B	アルカロイド等を含むし、局外生薬収載、局方収載予定生薬で漢方処方にも配合されている。
166	トウキ<当帰>	オニノダケ、 カラトウキ	根		① <i>Angelica acutiloba</i> Kingawa, ② <i>A. acutiloba</i> Kingawa var. <i>singyamiae</i> Hikino, ③ <i>A. sinensis</i> (Oliv.) Diels ④ <i>A. gigas</i> Nakai	Umbelliferae セリ科	①トウキ ②ホンカイトウキ ③カラトウキ ④オニノダケ	局方(①②の CP収載)		③Root: TDLo = 1.4 g/kg (rat, oral), Root extract: LD50 = 100 g/kg (mouse, i.v.)	③Class 2b	A	局方に収載される重要な生薬である。子宮に對する収縮作用が報告されており、使用には注意が必要である。また、カプタドでは医薬品以外への使用が禁止されている。	
167	トウジン<独参>	ヒカゲノブルニンジン	根		① <i>Codonopsis pilosula</i> (Franch.) Nannf. (= <i>Campananinoca pilosula</i> Franch.) ② <i>C. tangshen</i> Oliv.	Campanulaceae キキョウ科	①ヒカゲノブルニンジン ②トウジン	× 一般薬、 CP収載	①β-carboline alkaloidの perilyrineを含む。含塩 0.17mg/kg	①Polysaccharide of <i>C. pilosula</i> (Franch.) Nannf.: LDLo = 90 g/kg (mouse, oral); LD50 = 20.89 g/kg (mouse, i.v.) Extract of <i>C. pilosula</i> (Franch.) Nannf.: LD50 = 1.7 g/kg (mouse, i.v.)	Class 1	C	毒性が不明のアルカロイドが含まれるので、調査が必要である。	
168	トウシンソウ<独心草>		全草		<i>Juncus effusus</i> L. var. <i>decipiens</i> Buchem. (= <i>J. decipiens</i> Nakai)	Juncaceae イグサ科	イ、イグサ	○ CP収載				C	フェナントレン誘導体が含まれる。フェナントレン誘導体には変異原性が知られているものがあるため、調査が必要である。	
169	トウソルキンソイ	アンゼリナ	全草		<i>Potentilla anserina</i> L. = <i>Argentina anserina</i> (L.) Rydb.	Rosaceae バラ科	エンソルキンソイ, ヨウソウソルキンソイ	○ Com E				A	活性成分は不明であるが、子宮の緊張を高め、収縮間隔をせまめる作用が知られており、安全性に配慮が必要である。また、ドイツで医薬品として使用されている。なお、名称は再考が必要である。	
170	トウニン<独仁>		種子	葉・花は「非医」	① <i>Prunus persica</i> Batsch. (= <i>P. vulgaris</i> Mill.) ② <i>P. persica</i> Batsch. var. <i>dauriana</i> Maximowicz (= <i>P. davidiana</i> (Carr.) Franch)	Rosaceae バラ科	①モモ ②ノモモ	局方 CP収載	青酸配糖体amygdalin (LD50 = 405 mg/kg (rat, oral)), prunasin ②のβ-glucosidaseにより水解してbenzaldehyde, HCN, glucoseになる。 KCNの毒性はTDLo = 14mg/kg, LDLo = 170mg (成人)である。		Class 2b, 3 Class 1	A	青酸配糖体のamygdalinを含み、Botanical Safety HandbookでClass 2b, 3と評価されているため、安全性に配慮が必要である。	
171	トウヨウソウ <冬菴草>		全草		<i>Rubus ribescens</i> (= <i>Isodon rubescens</i> )	Labiatae シソ科		×	ジテルペンのoridonin (=rubescensin A, LD50 = 35 mg/kg (mouse, i.p.)), ponicidin (=rubescensin B, LD50 = 55.8 mg/kg (mouse, i.p.))			A	血管新生抑制作用など顕著な作用を示し、また、劇薬相当の毒性を示すジテルペンを含む。	

172 トウカツ<独語>	①ウド ②シンウド	根茎	軟化茎は「非 医」	① <i>Aralia cordata</i> Thunb. ② <i>Angelica pubescens</i> Maxim., <i>A. bisserata</i> Shan et Yuan	①Araliaceae ウコギ科 ②Umbelliferae セリ科	①ウド ②シンウド	①局外生規 の独居 ②局外生規 の群独居 CPI収載						①同属の <i>A. californica</i> <i>A. nudica</i> <i>utis</i> , <i>A. nance</i> <i>mosa</i> (アメリ カのカン シヨウコウ) が2b ②Class 2d 同属 <i>A. delaviana</i> (Fischer ex Hoffm.) French, et Sav. (ビヤク シ): Class 1	①B ②E	①食品として不適当なほど毒性が高いわけではないが、局外生規に収載される重要な漢方処方に用いられるなどわが国では重要生薬である。 ②毒性が高い成分が含有されるとい報告はない。また、局外生規に収載されていないので、シンウドとして見直しの対象になると考えられる。
173 トコン根<独語>	トコン	根茎		<i>Cephaelis</i> 属。局方では ① <i>C. ipecacuanha</i> (Brot.) A. Richard ② <i>C. acuminata</i> Karstien	Rubiaceae アカネ科	トコン	局方	emetine, cephaeline, psychotrine, ipecamine, ipecoside, emetamine, tubulosine	emetine (LD50 = 12 mg/kg (rat and mouse, i.p.)	Class 2b, 2d	A	劇薬相当のemetineなど、作用の強いインキリン アルカロイドを含む。なお、トコン根という風名は 一般的ではなく、名称をトコンとし、他名等全て ニアリス属とすべきと考える。			
174 トンシ<菟絲子>	ネオンカズラ、 マダダオン	種子		① <i>Cuscuta chinensis</i> Lam. ② <i>C. australis</i> R. Brown ③ <i>C. japonica</i> Choisy	Convolvulaceae ヒルガオ科	①ハマネナシカ ズラ ②マダダオン ③ネナシカズラ	○ ①③中薬大 辞典 CPIには収載	①インドールアルカロイドの cuscutamine	②Acidic polysaccharide from seeds: TDLo = 100 g/kg (mouse, i.p.)	Class 1	A	毒性未確認のインドールアルカロイドが含まれ る。また、同属植物で毒性の強い <i>agocaine</i> の含 有が知られている。			
175 トチュウ<杜仲>		樹皮	果実・葉・莖 節・木部は 「非医」	<i>Eucommia ulmoides</i> Oliv.	Eucommiaceae トチュウ科	トチュウ	局方 (日局14第一 追補、CPI収 載)		Hot water extract from leaf: TDLo = 37.8 g/kg (rat, oral) Extract: TDLo = 36 g/kg (rat, oral)	Class 1	B	局方収載の重要生薬であるため専ら医薬品とし ておくことが望ましい。			
176 ドモッコウ<土木香>	オオグルマ 英名 elecampane, scabwort, alani, horseheel, yellow starwort	根		<i>Inula helenium</i> L.	Compositae =Asteraceae キク科	オオグルマ	Com E 和漢薬		<i>I. viscosa</i> L. leaves MeOH ext. rat LD50 2958 mg/kg (i.p.), <i>I. racemosa</i> , root ext. rat LD50 250 mg/kg	Class 2b, 2c	A	ComEにアレルギーのリスクを考えると積極的な使 用を勧めないとの記載があり、BSHにも妊娠中や 授乳期での使用禁忌がある。また、蕁麻疹植物 混乱によるリスクも高い。			
177 トラゴント	英名 Tragecanth	樹脂		<i>Astragalus gummifer</i> Labillardiere 又はその同属植物の幹か ら得た分泌物	Leguminosae マメ科		局方		<i>Astragalus miser</i> varieties oblongifolius, extract: chicken oral LD50 9.7mg/kg, <i>Astragalus</i> <i>membranaceus</i> , root extract ( <i>Astragalosides</i> ): oral mouse TDLo 20mg/kg, <i>Astragalus</i> <i>bicuspid</i> , Fischer, extract, ip mouse LD50 681 mg/kg; <i>Astragalus candolleanus</i> Royle, extract, ip mouse LD50 1g/kg ( <i>Astragalus</i> で18hit) Tragecanth では、1hit LD50 oral rat 10.02g/kg, oral mouse 10g/kg, oral rabbit 7.2g/kg, oral hamster 8.8g/kg.	membranac eus Bunge, A. mongholicu s Bunge. root で Class 1	E	既存添加物であり、JECFAによりADIを特定しな いという安全性評価が終了している。			

176	トリカブト属	トリカブト、プシ、ヤマドリカブト 英名 Aconite	樹脂	サンヨウブシ <i>A. sanyoense</i> は除く	Aconitium 属 <i>A. carnicaefol.</i> Debeaux <i>A. japonicum</i> Thunberg	Ranunculaceae キンポウゲ科	生薬名 附子 ハナトリカブト ①アプシ ②オケトリカブト	局方 14局第二道 補収載予定 Com E	aconitine, mesaconitine, jesaconitine, pseudoaconitine 等 アルカロイドを0.4-1%含む マイナー成分として、hygenanine (demethylhycolaurine), cocaineine, shbride, aconitineは、加水分解されるとaconitineとなり毒性は1/50-1/200となる	domestine 知覚神経、 運動神経を 麻痺させ、中 枢に對し麻 酔的な作用	LD50 oral mouse 26.6 g/kg (stem extract) domestine: i.v. rat TDLO 0.3 mg/kg m-OH mandenonitrile oral mouse LD50 25.4mg/kg 27.5mg/kg, human p-Glucosyloxymandelonitrile glycoside)	①Class 3	A	毒薬薬成分を含み、また医薬品原料としても重要である。サンヨウブシ( <i>A. sanyoense</i> )にも同様のアルカロイドが含まれるので、除くべきではない。
179	ナンテンジツ <南天実>	①シロミナンテン ②ナンテン 英名 heavenly bamboo, nandina	果実		① <i>Nandina domestica</i> Thunberg forma leucocarpa Makino ② <i>N. domestica</i> Thunberg	Berberidaceae メギ科	①シロミナンテン (シロナンテン) ②ナンテン	局外生規	domestine 知覚神経、 運動神経を 麻痺させ、中 枢に對し麻 酔的な作用	LD50 oral mouse 26.6 g/kg (stem extract) domestine: i.v. rat TDLO 0.3 mg/kg m-OH mandenonitrile oral mouse LD50 25.4mg/kg 27.5mg/kg, human p-Glucosyloxymandelonitrile glycoside)	A	中樞作用を有するアルカロイドdomestineや β-glucosidaseの関与なしに胃酸を発生する胃酸配糖体を含む。		
180	ナンバンゲ<南蛮香>	トウモロコシ 英名 corn silk	花柱、柱頭	種子油・澱粉 は非医	<i>Zea mays</i> L.	Gramineae イネ科	x 民間薬として は使用			経口のTDL0値が大きく、また問題となる成分も知られていない。なお、他名等にナンバンゲモウを入る必要がある。	E			
181	ニガキ<苦木>	英名 Picrosma Wood	木部(樹皮を除く)		<i>Picrosma quasistoides</i> Bennet	Simaroubaceae ニガキ科	ニガキ	局方	アルカロイド niginone, methylniginone, β-carbolin誘導体	oral rat TDLO 6.3g/kg (silken styles of com extract) <i>P. javanica</i> BL. mouse i.p. LD50 >1g/kg	Class1 (花柱 Stigma)	A	アルカロイドを含有しており、また局方収載生薬で安全性に配慮が必要である。	
182	ニクジュヨウ <肉桂香>	①ホンオニク ②オニク(キムラ タケ)	肉質茎	カンカニク ジュヨウは非 医	① <i>Cistanche salsa</i> , Benth et Hook. f. ② <i>Boschniakia rossica</i> B. Fedtsch. et Hieron= <i>B. glabra</i> C.A. Meyer	Orobanchaceae ハマウツボ科	①ホンオニク ②オニク(キムラ タケ)	Com E	Monoterpeneoid pyridine alkaloids (artifactでは?); boschniakine		E	含まれるとされるアルカロイドは、アーティファクトと考えられ、それ以外の成分も、特に危険なもの は報告されていない。(シウジュヨウも同様と考え られる)		
183	ニチニチソウ	英名 Madhscar periwinkle	全草		<i>Catharanthus roseus</i> (L.) G. Don <i>Vinca rosea</i> L. (旧名)	Apocynaceae キョウチクトウ科	ニチニチソウ	局方	alstonine, reserpine, vinblastine, vincristine, yohimbine and yohimbinoid and strychnoid base (antineoplastic neurotoxic alkaloids) インドールアルカロイド	alstonine: oral mouse LD? >3g/kg他 reproductive effects oral mouse (7-12d preg.) TDLO 120 mg/kg Vincristine sulfate ラット静注 LD50: 80μg/kg, マウス経口 LD50: 1mg/kg, マウス腹腔 LD50: 270μg/kg, マウス皮下 LD50: 270μg/kg, マウス静注 LD50: 100μg/kg	Class3	A	毒薬相当の要指承認成分を含む。	
184	ニウコウコウ<乳香>	英名 frankincense, olibanum	全木		ウルシ科ニウコウ属 <i>Platanus</i> sp.の樹脂 ① <i>P. lenisculus</i> L. ② <i>P. Khamik</i> Stocks. カンラン科 <i>Boswellia</i> sp.の 樹脂 ③ <i>Boswellia carterii</i> Birdw.	Anacardiaceae ウルシ科 ③Burseraceae カンラン科	カンニウコウ ジュ ①ニウコウ 洗乳香 ②カンランコウ	x	既存添加物の基原と同じく、 <i>Boswellia</i> 属のものをニウコウとする。樹液相当の毒性データがあり、安全性に配慮が必要である。	③i.p. rata LD50 85 mg/kg	Class1	A		



192	ハクトウスギ<白豆杉>	ウナンコウトウスギ	樹皮・葉	心材は「非 医」	<i>Pseudotsuga chunii</i>	Taxodiaceae スギ科	ハクトウスギ	x	パクリタキセル				paclitaxelを含有するとの報告があり、専ら医薬品と考えられる。	A			
193	ハクモンドウ <茨門冬>	コヤブラン、 ジャノヒゲ、 ヤブラン、 リュウノヒゲ	根の膨大部		① <i>Ophiopogon japonicus</i> Ker-Gawler ② <i>Liriope platyphylla</i> Wang et Tang. ③ <i>L. spicata</i> Lour.	Liliaceae ユリ科	①ジャノヒゲ、 リュウノヒゲ ②ヤブラン ③コヤブラン	①局方			Class 1	Class 1	局方取載生薬で流方処方にも配合されており、重要生薬であることから専ら医薬品とすることが望ましい。	B			
194	ハクゲキチン<巴菰冬>		根		<i>Morinda officinalis</i> How.	Rubiaceae アケボノ科	モリンダ・オフイン ナリス	○ 一般薬			Class 1	Class 1	発がん性が確認された西洋アケボノ科中に存在する強い変異原性物質である「トラスキン」類を多量含有しており安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品とすべきである。	A			
195	ハシロトコロ風	ハシロトコロ、ロー ト根	根		① <i>Scopolia japonica</i> Maxim. ② <i>S. carniolica</i> Jacquin, ③ <i>S. parviflora</i> Nakai	Solanaceae ナス科	①ハシロトコロ	①-③局方 ②Com E	scopolamine, hyoscyamine, atropine, apoatropine, scopadomine, scoppine, scopolone		②Class 3	②Class 3	劇薬相当のアトロピド(hyoscyamine)が含有されておらずに医薬品と考えられる。	A			
196	ハズ		種子		<i>Croton tiglium</i> L.	Euphorbiaceae トウダイクサ科	ハズ	x	発ガンプロモーター作用を 持つホルボールエステル類 phorbol and its esters: phorbol, phorbol 12-tiglate 13-decanoate, 12- tetradecanoylphorbol, 13- acetate (phorbol ester A1), phorbol ester A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7			Croton oil: LD50 = 60 mg/kg (frog, ip); LD70 = 3.74 mg/kg (mouse, subcutaneous)		Class 1	Class 1	毒薬相当の毒性があり、発ガンプロモーター作用を持つホルボールエステルを含む。	A
197	ハマメリスヨウ	ハマメリス 英名 witch hazel	葉		<i>Hamamelis virginiana</i> L.	Hamamelidaceae マンサク科	アメリカマンサク	Com E			Class 1	Class 1	アルカロイド等の問題となる成分は含有しておらず、またBSH, Com Eにおいても安全性に問題となるような記載がないことから食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。	E			
198	バリエラ ハレイラ根	バリエラ、 ハレイラ根	樹皮・根		<i>Chondrodendron</i> spp. または <i>Chondrodendron</i> spp.	Menispermaceae ツツアジ科		局方 医薬品の原 料	bisbenzylisoquinoline alkaloids: (+)-tubocurarine, (+)-beberine, isochondrodendrine				Extract of <i>Chondrodendron</i> <i>limacifolium</i> : LD50 = 2 g/kg (mouse, subcutaneous)	Class 1	Class 1	毒薬であり指定医薬品である(+)-tubocurarineを含むため、使用には注意を要する。なお、名称「リウ」エラ根はほとんど用いられないので、コンドレンドロン根あるいはコンドレンドロン根に變更するのが適当と思われる。	A

199	ハルマラ		種子		<i>Peganum harmala</i> L.	Zygophyllaceae ハマビシ科		x	pegamine, vasicinone, deoxypeganinone, deoxyvasicinone	indole alkaloids: harmaline (hallucinogenic), harmine (hallucinogenic at high doses), tetrahydroharmine (hallucinogenic)	Seed extract: LD50 = 450 mg/kg (mouse, route unreported); Extract: LD50 > 500 mg/kg (mouse, i.p.)	A		向精神薬の類似化合物であるハルマラミンを含む。
200	ハンダク<半夏>	カラスビシャク	塊茎		<i>Pinellia ternata</i> (Thunb.) Breit.	Araceae サトイモ科	カラスビシャク	局方			含有量は0.002%と低い。epinephrineを含む。	Class 2b, 2d	A	劇薬・要指示医薬品・吐き止剤原料であるepinephrineを含む。
201	ヒマシ油	トウゴマ、ヒマ	種子油		<i>Ricinus communis</i> Linné	Euphorbiaceae トウダイグサ科	トウゴマ	局方		毒性タンパク質: ricin (LDLo = 0.3 mg/kg (man, oral); LD50 = 2 µg/kg (mouse, i.p.)) ピペリンアルカロイド: ricinine (LD50 = 25 mg/kg (mouse, subcutaneous))	Reproductive data of seed extract: TDLo = 400 mg/kg (rabbit, intramuscular); Extract: LD50 = 3g/kg (mouse, oral); LD50 = 340 mg/kg (mouse, i.p.)	Class 2b, 2d	A	原料の種子には毒薬相当のタンニン(gallotannin)と同じく毒薬相当のアルカロイド(ricinine)が含まれる。また、胚下葉であり、使用には注意が必要である。
202	ビヤクシ<白芷>	ヨロイグサ	根		<i>Angelica dahurica</i> Benth. et Hook.	Umbelliferae セリ科	ヨロイグサ	局方				Class 1	B	局方に収載される重要な生薬であり、210処方でも使用されている。
203	ビヤクジュユツ<白朮>	オオバノオケラ、オケラ	根茎		① <i>Atractylodes ovata</i> DC. (= <i>A. macrocephala</i> Koiz.) ② <i>A. japonica</i> Koiz. ex Kitam.	Compositae キク科	①オオバノオケラ ②オケラ	局方				Class 1 ( <i>A. macrocephala</i> Koiz.)	B	局方に収載されており、多数の漢方処方に使用されるなどわが国では非常に重要な生薬である。
204	ビヤクダン<白檀>	英名 white sandalwood	心材・油		<i>Santalum album</i> L.	Santalaceae ビヤクダン科	ビヤクダン	Com E			Sandalwood oils: LD50 = 5580 mg/kg (rat, oral)	Class 2d	A	副作用としての吐き気や腎臓の疾病に対する禁忌が知られているため、使用には注意が必要である。
205	ビヤクア<百部>		肥大根		① <i>Stemona japonica</i> (Blume) Miq. ② <i>S. sessilifolia</i> (Miq.) Miq. ③ <i>S. ovata</i> Nak.	Stemonaceae ビヤクア科	①ツルビヤクア (ビヤクア) ②タチビヤクア ③トウビヤクア	x	<i>Stemona</i> alkaloids ①stemonine, stemonidine, isostemonidine, protostemonine, stenine, tuberostemonine, hodordine, sessilistemonine ②stemonine, stemonidine, tuberostemonine, hodordine, sessilistemonine	①Crude extract: TDLo = 20g/kg (mouse, subcutaneous)		A	ステモナアルカロイドが含まれており、殺虫薬として用いられるものであるため、安全性に十分な配慮が必要である。	
206	ヒユウガトウキ		根		<i>Angelica furecujuga</i> Kitagawa	Umbelliferae セリ科	トウキとは同属植物であるが別種。分類学的にはトウキよリカワゼンコに近縁とされている。	x					D	様々な薬理作用が報告されている一方、安全性に関する情報が不足している。

207	ヒヨス 英名 herbane, henbell hogbean <天仙子>	種子・葉	① <i>Hyoscyamus niger</i> L. ② <i>H. agrestis</i> ③ <i>H. muticus</i> ④ <i>H. albus</i>	Solanaceae ナス科	①ヒヨス ②シナホトコ ③西ハキスタン〜 エジプト ④地中海地方	Com E	Apoatropine/Hyoscyamine/Hyosc yamine (Tropane alkaloid) 総アルカロイド0.07%	(+)hyoscyamine i.v. mouse LD50 81 mg/kg, atropine reproductive effect: oral rat TDLO 437.5mg/kg; iv woman 26-39W preg TDLO 0.02mg/kg 毒性 oral human TDLO 0.033mg/kg. scopolamine ラット経口 LD50:2650mg/kg,マ ウス経口 LD50:1275mg/kg, マウス腹腔 LD50:400mg/kg,マ ウス皮下 LD50:1700mg/kg, マウス静注 LD50:100mg/kg	A	劇薬相当のアルカロイドを含む。
208	カンジュンウ、マ ンサク 英名 @Amur Adonis	全草	① <i>Adonis amurensis</i> Regel et Radde ② <i>A. vernalis</i>	Ranunculaceae キンポウゲ科	①フクジュソウ ②セイヨウフク ジュソウ	Com E	強心配糖体を含む Adonitoxin, LD50 (Katz): 0.19 mg/kg (i.v.), cyanarin, LD50 (Maus), 0.1 mg/kg (i.v.)	①infusion human oral, TDLO 4.95 mL/kg cat LD100 k-strophantoin ②1606mg/kg ③leaf extract i.v. guinea pig LD50 6.201mg/kg, oral cat LDLO 32.5 mg/kg	A	毒薬相当の強心配糖体を含む。名称をフクジュソウ風とすべきである。
209	ブクンボク <依神木>	菌核に含まれる 根	依神中に含まれた松の リョウ(Poria cocos (Fr.) Wolf)の菌核中に寄生し て、未だ同化の完成しな いもの。	Polyporaceae サルノコシカケ科		x 中薬大辞典	不詳	不詳	D	成分情報が無い。
210	ブクボシシ<覆盆子> ゴショイチゴ	未成熟集果	① <i>Rubus chingii</i> Hu ② <i>R. Craiaegifolius</i> Bunge, <i>R. coreanus</i> Miq.	Rosaceae バラ科	①ゴショイチゴ ②韓国産	○	同属のみあり	Class 2d (実)	A	BSHに禁忌があり安全性に配慮が必要である。
211	マツホト 英名 Poria Sclerotium	菌核	<i>Poria cocos</i> Wolf= ( <i>Pachyma hoeleni</i> , Rumph.)	Polyporaceae サルノコシカケ科	マツホト	局方		Danggui Shaoyao San (ブク)ノ ウを含む7生薬からなる), water extractsとして oral rat TDLO1.4g/kg	B	局方に記載されており210処方中74処方を用いら れるなど医薬品として特に重要な生薬である。
212	フジゴブ<藤縮>	根茎	① <i>Wisteria floribunda</i> DC. ② <i>W. sinensis</i> Sweet.	Leguminosae マメ科	①フジ ②シナフジ	○	不詳	<i>W. chinensis</i> DC (植物のもの) i.p. mouse LD50 >1g/kg	D	医薬品としての使用実態はあるが、成分情報がな く判断できない。